

2050年の大阪の将来像に関するご意見

森下 竜一 様

- 大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会」の考え方から、2050年の大阪の将来像の検討に向け、3つのキーワード【健康、持続可能、国際都市】を設定しました（別添有識者WG資料3，4ページ目を参照してください。）。それぞれの観点を参考に、委員の皆様が現時点で考える2050年の大阪のあるべき将来像があれば、自由に記載してください。

大阪・関西に強みのある健康医療をベースに健康医療ツーリズムの国際的な拠点を目指すべき。

現在のインバウンド観光客に加え、より富裕層で長期滞在型の観光客を増やし、夢洲のIRの目玉として発展させては、どうか。

そのために、2025万博において、大阪府市の10歳若返りパビリオンだけでなく、政府パビリオンとして世界最先端の医療モデルルーム病院を誘致し、万博開催前後から健康医療ツーリズムの拠点として活動できるようにしては、どうか。

また、万博会場だけでなく、IR部分も含め（場合によっては、舞洲・咲洲まで含め）、未来の都市を目指すスーパーシティを誘致し、島だけで独立した持続可能な未来国際都市を目指し、海外へのインフラ拠点としての都市モデルとしての輸出を目指す実験場にすべき（キャッシュレス決済、オンライン医療、オンライン教育、全自動モビリティ、オンライン行政など）。

モデル都市をベースに、大阪府下全域で人口減少時代に応じた都市構造を進めるべき。

（将来像の実現に向けて、克服すべき課題や取組みの方向性がありましたら、記載してください。）

早急にIRと万博の整合性をとり、一体としてインフラ都市機能を進める必要がある。

政府パビリオンと大阪府市パビリオンの一体的な運営を行い、IRにも活用できるような配置と全体構想の推進。

規制が問題になることも多く、地域一帯を規制のサンドボックスとして指定されることが望ましい。

-----ご記載いただく上での留意点-----

- 参考資料として添付している「大阪のめざすべき将来像を考えるうえでの視点」や「大阪の現状」、「人口推計」等をご参照のうえ、自由にご意見を記載してください。
- WG 当日に、各委員の説明時間（5～10分）を設けますので、資料の補足事項は、その際にご説明いただけます。
- 今後の取組みの方向性は、行政に限らず、民間などの取組みも含めて幅広く記載いただいても結構です。なお、本ビジョンが、2025年を目標年次としていることから、2025年に向けた取組みの方向性を記載してください。
- 行数が不足する場合は、適宜、新たな行を追加してください。
- ご提出いただいた本様式は、資料として配布するとともに、WG 終了後、HP 上で公表いたします。
- 本様式以外に、第1回WGで提出を予定されている資料があれば、併せてお送りください。